

CONFORT

インテリア・デザイン・建築を結ぶ 隔月刊コンフォルト

創刊号 1999年3月15日発行 定価 500円(税別) 1冊1000円(税別) 1年10冊 10000円(税別)

2015 No.33 Apr

特集 ジャパニーズ・オリジナル

杉とゆく 懐かしい、未来

南雲勝志とスギダヲをひとひ

杉普請の住まい 林美樹/日影良

暮らしの道具としての杉 石田紀

杉源郷・智頭にみる杉の可能性 齊藤祐

レーモンドと利休 安藤邦

天狗の植えた杉 梁瀬光

里山の杉普請 里山建築研究

杉の家具 エンツォ・マーリ×飛騨産

保存版
建築材としての杉を知る

杉講座

特別企

再生の風景「繕い」 さる

「ジャパニーズ・モダン——剣持勇とその世界」展 新見

バスルーム&パウダールーム 製品カタログ

技術が裏付ける、 美しくてやさしい無垢の木の家具 宮崎椅子製作所×小泉誠×村澤一晃の新作

徳島のメーカー・宮崎椅子製作所とデザイナー小泉誠、村澤一晃による家具（本誌2004年10月号参照）の新作が続々と登場した。

小泉の「ORI」は、昨年のデザインズウィークで発表されたスツール。折り紙のようなシャープで繊細な形状は、同社の高い技術力の賜物で、スタッキングも可能。この他、人気の高いオアシスシリーズのスツール、長く温めていたデザインが商品化となった「X-stool」、一筆描きのような脚の「enサイドテーブル」、「kai」のゆったり版など、目下押した。

村澤の新作は「pepe」。強度を出すためのフィンガージョイントがデザインのポイントにもなっている。胡椒という名は、要所所にピリツと技術の隠し味が効いていることから。つながった脚・アームのパーツは、一見同じに見えるが、実は断面が微妙に違う。脚部は丸いが、アーム部分は握りや触り心地を考えて、丸四角に削り出されている。心憎い。アームは2種、テーブルとの兼ね合いや、腕の乗せ方の好みで選べる。http://www.tk2.mtime.jp/~miyazakis/



左/「pepe」W530×D520×H720 (sh420)、デザインは村澤一晃。アームの形状は2タイプ。左はホワイトアッシュ、¥33,180。右はウォールナット、¥38,850。価格は張り地によっても変動。右/小泉誠のデザイン「ORI」。W430×D375×H420、ウォールナット、¥27,300。共に材は5種類で、ブナ、ナラ、ブラックチェリーもある。
[宮崎椅子製作所] tel 088-641-2185 資料請求番号1001

ハイビジョン映像の艶、色、輝き、階調を堪能 フルHDプロジェクター



左/プロジェクター部「LPF-D711WW」。W498×D426×H160mm、質量12kg、使用電源100～200V、50/60Hz、消費電力350W。右/マルチセレクター部「LPF-QSD1WS」。W430×D350×H95mm、質量5kg。プロジェクターとセレクターのセットで¥2,415,000。【富士通ゼネラル】tel 044-861-9873

インテリアデザイナーの内田繁が「存在感を希薄にして室内に溶け込むように、しかし愛すべき存在感も欲しい」とデザインしたプロジェクターは、今までの機械的なものとは一風変わっている。実はこの形「内部構造の配列をそのまま、物理的な大きさを消し去ろうと考へ、削ぎ落としていった結果、出てきたデザイン」という。AV機器、スピーカー、リラックスチェアや室内を飾る小物などホームシアターという空間を彩るさまざまなものの中にあって、不自

然でない美しいスタイルが表現されている。もちろん、美しさは形だけにとどまらない。1920×1080という驚異的な画素数、687億色という色再現力、液晶やプラズマの弱点であった暗部のグラデーションをなめらかに再現する機能（最暗部で一千京10の19垂などを搭載、実際に見ているような、美しい映像が大画面に映し出される。ますます増えていくハイビジョン映像を堪能できる美しいインテリアアイテムとなりそうだ。

こだわりのインテリアにも、スッと溶け込む マッサージチェア「ラ セレヴィス」



カラーはルーージュとショコラの2色。最大寸法、W720×D1150×H1150mm、リクライニング・フットレスト使用時の奥行、1710mm（リモコンスタンドを除く）。質量、約59kg。電動リクライニング、約120～170度。オートタイマー（15分）。外装は合成皮革。¥320,000。[マルタカ] 0120-224-027 資料請求番号1002

必要な機能をフルで備えながら、部屋に置いてもインテリアを損なわないマッサージチェアが、マルタカより発売された。デザインは、プロダクトや家具デザインで幅広く活躍する酒井俊彦。大きく、重く、機械的で、開発技術をそのまま搭載すると、インテリアの中ではどうしても不自然になってしまうマッサージチェアを、快適な装備はすべて残しながら、いかにソファやイスのように違和感のない存在に仕上げるか、とても苦労したという。また、メタリックな脚まわりや、くるりと回転する足もみ部分など、マッサージチェアとしての機能性も絶妙に見え隠れし、そのさじ加減が大きなポイントだったという。もみ心地の選択は、おまかせコースから、ポイントのみ、指圧、叩き、背筋伸ばし、脚のみ上げ、足裏指圧などフルマッサージがリモコンで簡単に操作可能。ごつくながりがちな見た目も難しい操作もなるべくシンプルに、かつ、クオリティも高かった、今までにないマッサージチェアなのだ。